

動画解説まとめ 19 / 画像・デザイン

AIで3Dデータを作り、 造形と販売を試す入門ガイド

ペン立てやフィギュアをAIで設計し、3Dプリンターで出力する流れを整理。サイズ調整、サポート材、失敗時の直し方と、実際に販売して分かった採算の課題もまとめました。

この動画の要点

あべさんが約半年にわたり3Dプリンターを試し、AIで作ったデータを実物にした記録です。チャットAIへSTL形式で依頼する方法と、写真からフィギュアを作る方法を実演しています。造形用アプリでの読み込み、サイズ変更、サポート設定、出力後の仕上げまでを整理しました。パズルを販売できても、送料と材料費を含めるとほぼ赤字だったという結果も紹介し、作れることと利益が出ることを分けて考えます。

01 チャットAIで小物を設計する方法と、写真から立体モデルを作る方法がある。

02 STLデータを造形用アプリへ読み込み、サイズやサポートを確認して出力する。

03 細い部品や空中へ張り出す部分は、出力後の仕上げまで確認する。

04 売れた金額から送料や材料費を引き、利益を別に確認する。

05 公開モデルの利用条件や、用途に応じた安全性を確認する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【大神回!!】完全に新しいAI副業!!AI×3Dでお金を稼ぐ方法超初心者向け徹底解説【在宅副業】【3Dプリンター】

<https://www.youtube.com/watch?v=kTpABmRsXCM>

必要なのはプリンター、材料、造形用アプリ

動画の該当箇所 18:00 / タップして開く

動画の冒頭では使い方に戸惑っていたあべさんが、その後約半年で複数のプリンターを試しています。撮影時点では、価格、作れる大きさ、動作音を比べてA1 miniを初心者向けと評価しています。特に、自宅で使うときの音や設置場所も選ぶ理由に含まれています。紹介される購入価格は当時のもので、現在の価格や最適な機種を確定する資料ではありません。

材料となるフィラメントは、通常のプリンターのインクに相当すると説明しています。色や見た目だけでなく、用途によって耐久性が変わる点にも触れています。屋外などで使うものと、室内で試す小物を同じ条件で考えず、何に使うかを踏まえて選ぶという話です。

組み立てや初期設定は機種の説明書に沿って行い、メーカーのアプリへ接続します。最初はアプリ上の既存モデルを選び、造形準備からプリンターを指定して出力する流れを試しています。まず自分で使うものを出して、作業の流れをつかむ段階です。

- ・ 機種選びでは価格、造形サイズ、音、置き場所を見る。
- ・ 材料は使う場所や用途に合うものを確認する。
- ・ 最初は既存モデルの利用条件を確認して、造形を体験する。

チャットAIには、作るものとSTL形式を伝える

動画の該当箇所 27:01 / タップして開く

AIでデータを作る方法の一つは、普段使うチャットAIへ欲しいものを説明する方法です。動画ではペン立て、小物入れ、スケッチブックを立てる器具などを例にしています。こうしたモデルは、AIがプログラムを書いて形を作る方法で生成されると説明しています。

依頼の基本は、作ってほしいものを「STLで出して」と伝えることです。STLは立体モデルのデータ形式で、画像ファイルをそのままプリンターへ送るのとは異なります。実演では「ペン立てをSTLで出して」と依頼し、ダウンロードする流れを見せています。

プログラムだけが返り、そのまま使えるファイルが出ない場合は、STLをダウンロードできるようにしてほしいことと、3Dプリンターで出力する目的を言い直しています。手描きの図を写真に撮って渡し、その形をSTLにする方法も紹介されています。欲しい形だけでなく、何のために使うのかを伝えると、修正の方向が分かりやすくなります。

- ・ 文章で形を指定する：ペン立て、小物入れ、立てかける器具など。
- ・ 図で伝える：手描きのスケッチを写真にして渡す。
- ・ 形式を指定する：3Dプリンターで出力するため、STLをダウンロードできる形で依頼する。

データを読み込み、サイズとサポートを確認する

動画の該当箇所 31:00 / タップして開く

作成したデータは、メーカーのパソコン用アプリへ読み込みます。動画では「準備」の画面から追加ボタンを押し、ダウンロードしたファイルを選択しています。表示された形が希望と違う場合は、アプリ内で細かく編集する代わりに、AIへ作り直しを頼む方法も示しています。

覚えておくと便利な操作として、サイズ変更が紹介されています。置きたい場所に合わせて幅や高さなどを指定すると、実際のスペースに合う小物を作れます。その後、スライスを実行し、造形開始からプリンターへ送ります。

もう一つの設定はサポートです。3Dプリンターは下から層を積み上げるため、象の鼻や顔のように空中へ張り出す部分は、そのままではうまく作れないことがあります。動画ではサポートを有効にし、支える材料と一緒に出力しています。完成後に取り外すための部分なので、形を保つために必要な支えと、最終的な作品を区別して見ます。

- ・ 準備画面でSTLファイルを追加する。
- ・ 必要に応じて、幅や高さなどを変更する。
- ・ 張り出す部分がある形では、サポートの設定を確認する。
- ・ スライス後に造形を開始する。

写真からフィギュアを作り、細部を仕上げる

動画の該当箇所 33:01 / タップして開く

もう一つは、立体モデルを作る専用のAIを使う方法です。動画ではメーカーのMakerLabからフィギュア用の機能へ進み、新規プロジェクトに写真を読み込みます。スタイルやポーズを選んで生成し、データをダウンロードして先ほどの造形用アプリへ入れています。

その後は同じように、サポートを確認してスライスし、造形を開始します。映像には複数色の作品も出ますが、初心者向けの説明は基本的に一色で出力する前提です。複数色を扱う詳しい設定までは、この動画では説明していません。

出力後は土台の板から作品を外し、サポート材を取り除きます。複雑な形ではニッパーを使い、作品の細い部分まで折らないように作業しています。本人のフィギュアでは、眼鏡の縁がサポートと一緒に取れてしまう問題があり、眼鏡なしの形へ変更しました。作成できたデータでも、自立するか、細部が残るかは実物で確認する必要があります。

- ・ 材料：人物の写真。
- ・ 操作：スタイルやポーズを選び、モデルを生成する。
- ・ 造形：データを読み込み、サポートを含めて出力する。
- ・ 仕上げ：細い部品を傷めないよう、支えを取り除く。

販売できても、採算が合うとは限らない

動画の該当箇所 42:01 / タップして開く

あべさんはAIで作った立体物をメルカリで販売した結果も報告しています。複数のものを試した中で売れたのはパズルで、販売できたこと自体は確認できたものの、送料とフィラメント代を考えるとほぼ赤字だったと話しています。初心者がすぐ大きく稼げる方法として紹介しているわけではありません。

自分で使う小物についても、大きくなるほど材料を使い、既製品を買うのと費用があまり変わらない場合がありますと説明しています。動画の例では、やや大きめの小物入れで40〜50gほど材料を使うことがありました。作品の大きさや形で必要な材料が変わるため、出力できることと安く作れることを分けて見る必要があります。

あべさんが今回の経験に感じている価値は、AIのデータを実物にして、人へ届けるまで試したことです。今後のAI活用への見通しも話していますが、それは本人の予想です。現在の販売結果と、将来こうなるかもしれないという期待を混ぜないことが大切です。

- ・実績：パズルを販売できた。
- ・採算：本人の試行では送料と材料費を含めるとほぼ赤字。
- ・学び：データ作成、出力、仕上げ、販売までを一度経験した。

売る前に、データの条件と使う場面を確認する

動画の該当箇所 47:01 / タップして開く

動画では、アプリから出力できるモデルでも、自由に販売できるとは限らないと繰り返しています。公開されているデータについては、それぞれの利用条件を確認する必要があります。AIで作ったものも含め、キャラクターなど他者の権利に関わるものを安易に商品化しないという注意が示されています。

販売時には、3Dプリンターで自作した作品であることを説明文に明記する話があります。また、食品に触れるもの、熱の近くで使うもの、身体や安全に影響するものなどは、単に形が作れたからといって扱わないよう述べています。材料の性質や構造が、実際の用途に耐えられるかという問題があるためです。

製造した物による責任も話題になりますが、具体的な出品条件や法的判断は、動画の説明だけで確定するものではありません。あべさん自身もAIの答えだけに頼らず、販売先の条件や専門家へ確認するよう話しています。本資料では注意点の要約にとどめ、個別の商品を販売できるという判断は行いません。

- ・データごとの利用条件を確認する。
- ・作品の作り方や性質が伝わる説明を用意する。
- ・使う場面に必要な耐久性や安全性を確認する。
- ・販売先の現在の案内と、必要に応じて専門家の判断を確認する。

失敗したら、周囲とデータの両方を見る

動画の該当箇所 50:00 / タップして開く

造形が崩れ、溶けた材料が糸のように絡まる状態も紹介されています。動画では、サポート不足などデータ側の問題と、周りの物が動きを妨げたなど実物側の問題に分けて考えています。まずプリンターの周囲を確認し、再度試すという本人の対処が示されています。

同じ失敗が繰り返される場合は、出来上がった状態を写真に撮り、AIへ渡してデータの修正を相談しています。映像上のモデルだけで判断せず、実際の失敗を材料に直す方法です。再試行の回数で原因を確定できるという一般則ではなく、あべさんの経験として紹介されています。

- ・ 周囲に動きを妨げるものがないか確認する。
- ・ サポートなどの設定と、モデルの形を確認する。
- ・ 失敗した状態の写真をAIへ渡し、修正を相談する。

実践の進め方

01 自分用の小物で造形を試す

機種の説明書に沿って準備し、既存モデルの条件を確認して出力の流れを覚えます。

動画 23:00

02 用途を伝えてSTLを作る

ペン立てなどの具体的な用途をAIへ伝え、STLをダウンロードできる形で出してもらいます。

動画 30:01

03 サイズと支えを確認して出力する

造形用アプリへ読み込み、寸法やサポートを確認し、スライスしてプリンターへ送ります。

動画 32:00

04 実物を確認し、必要なら直す

細部や使い勝手確かめ、失敗した場合は周囲の状況とデータを見直し、写真でAIへ相談します。

動画 50:00

05 販売は条件と採算を確認する

利用条件や用途を確認し、販売額だけでなく材料費と送料を含めて結果を見ます。

動画 43:01

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部の活用例】この資料を根拠に、私が3Dプリンターで試したい小物の作成計画を整理してください。記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めてください。使う場所、欲しい大きさ、手元の機種、用意できる画像や図を聞き、モデル作成から実物の確認までを整理してください。販売したい場合は、売上と利益、公開データの条件、未確認の事項を分けてください。

資料について

- ・ 動画内の制作実演と販売体験を整理した資料です。
- ・ 機種の価格やアプリの画面は撮影時点のものです。
- ・ 販売結果はあべさん個人の試行で、継続的な利益を示すものではありません。